

(家族労働力2人の場合)

栽培技術

1 品種と特性

「芙蓉種」

台湾導入系実生株から選抜した極早生品種で、ハウス、トンネル栽培など早だし栽培に適し、葉は小さく葉柄長も短い。根茎の分岐数は多く、浅く分布する。肥大茎の節間長は、短く、肥大性がよく肩張りが強い。肉厚で柔らかく食味がよい。

「金澄系品種」

極早生～早生の品種群で、早だし栽培に適する。金澄系極早生、金澄1号、金澄5号等がある。

「備中種」

晩生種では普通栽培から促成栽培まで幅広く使われている。

根茎の分岐は比較的多く、浅根で肥大よく、外皮は褐色をおび肉厚く粉質性の品種である。

2 栽培方法

栽培法には3つの方法があり、第1は植え付け法、第2は置堀法で収穫の時10%ほど残しておいて翌春芽生えてくるのを待つ方法、第3は2年堀法で収穫の特に植え付けも同時に行う方法である。

3 植え付け

植え付け時期は、2月下旬頃から行い栽植密度は、畦幅1.8～2.1m、株間60～90cmにし、種レンコンとして肥大充実した3～4節の子レンコンのついた無病無傷で形の整った1株500～700gのものを10a当たり800株くらいの密植とする。種レンコンは10a当たり400～500kgが必要である。

植え付け前に堆肥を全面に施し、深耕するとともに石灰窒素を散布し、湛水する。ハウス準備を早くして地温や水温を十分に高めておくことが重要である。

4 植え付け方法

稲ワラ等で植え付け予定の場所に目印をし、種レンコンが入る程度の植え穴をあけ、頂芽を土の中に深さ15cm程度で15度の斜め植えとして、丁寧に覆土し尾端を土の外にわずかに出しておく。

また、植え込むとき、頂芽の方向を揃え、植え付け終了後灌水する。

5 施肥

肥料を早くきかせて8～9葉の立葉を早く作り上げ、その後は栄養成長をおさえ、根の肥大充実をはかる必要があるため、基肥中心とするが、追肥を行う場合は4月下旬頃に行う。

施肥例 (kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	20	20	25	

※石灰窒素 (80～100kg)

6 水管理

浮き葉を大きく育てると、立葉が立ってからの生育が早まり多収となるため、植え付け後の水管理が重要になる。植え付け後はハウスの内外の水の出入りを防ぎ、地温や水温の低下を防ぐ。立葉の1～2節葉が開くまでは10cm位の深水とし、後に5～7cm位にしていく。降霜の予想される場合は、前日、用水の温度の最もあがった昼過ぎに灌水し深水とする。生育後半の水の入れ換え、かけ流しは還元防止の効果がある。

7 温度管理

日が昇る前後にハウスの谷換気を行い昼間は極端に冷え込む日以外は谷を全開する。ハウスを閉めるのは日が落ちる2時間位前とするが、午後3時頃にハウス内の温度が30℃以下となるときは早めに閉める。ハウス内の温度が30度を超えると徒長、高温障害を受けるのでサイドや妻面も換気する。夜温が10℃以上になったら夜間も開放する。

8 除草

浮草の繁茂は地温を低下させるので早期に除去する。定植後3～7日後と立葉4～5枚の時期に除草する。

9 芽まわし

他の圃場に伸び出さないように、地下茎の先端を内側に向ける。

10 収穫

立葉が10枚程度の時期から2～3節もののレンコンが収穫できる。

なお、この時期は根茎肥大最盛期であり、堀取りの早晚が収穫に大きく影響するので市況との関係を考慮して収穫時期を決定する。